

「NEDIA Day 東北ふるかわ 2024」開催報告

東北 NEDIA における夏の定期イベントとして、毎年「NEDIA Day 東北」を東北の各地で開催しています。今年度は昨年度に引き続き、7月16日(水)の午後にアルプスアルパイン株式会社の仙台開発センター(古川)において、東北大学未来科学技術共同研究センター共催、経済産業省東北経済産業局後援で「NEDIA Day 東北ふるかわ 2024」を開催しました。電子デバイス産業の東北地区における現状と将来の発展をテーマに、東北に立地する有力な大学・電子デバイス企業及び泉谷渉副会長によるセミナー講演を主体に実施しました。半導体産業の振興が急激に進んでいる東北地区での開催ということもあり、主催者側も入れて170名という打ち止めで会場定員一杯の盛大な会となりました。セミナーの後、会場近くで150名程が参加して懇親会を開催しました。

東北 NEDIA 副代表、アルプスアルパイン株式会社執行役員技術担当兼コンポーネント事業担当の相原正巳氏の司会、NEDIA 理事・東北 NEDIA 代表で東北大学名誉教授の川添良幸氏の挨拶に始まり、宮城県知事村井嘉浩氏、東北経済産業局 局長長佐竹佳典氏、大崎市市長伊藤康志氏、大衡村村長小川ひろみ氏という豪華来賓挨拶をいただくことが出来ました。特に村井知事は全国知事会長という超多忙な日程の中での参加で、宮城県に於ける半導体産業振興への熱い思いが感じられました。

以下にセミナー講演講師と講演内容概要を示します。(1) NTT 基礎研で光通信半導体開発に関して多大な貢献を挙げた後、東北大学金属材料研究所教授として研究を遂行されて来た東北大学名誉教授松岡隆志氏による「窒化物半導体の結晶成長とそのデバイス応用」と題する講演では、情報通信の基礎技術は何と言っても新規材料開発とそのデバイス化であることを極めて明示的に話されました。GaN 青色発光ダイオードの基盤となるイオン・ドーピング法の発明で有名な松岡氏は、現在、GaN 系での緑色発光強度を上げる研究、及び電気自動車用パワーデバイスへの縦型トランジスタ開発という競争の激しい世界の急激な進展に関する話題を基礎から分かり易く解説して下さいました。(2) 次に、ソニーの半導体レーザ事業の歴史と展望」と題して、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)白石蔵王テクノロジーセンター・アナログ LSI 製品部門 LD セクター・セクター長古嶋裕司氏の講演があり、ソニーの技術の基礎となる半導体技術が宮城県白石蔵王テクノロジーセンターで培われて来た歴史から現状、将来までを具体的に説明していただきました。特に、半導体レーザの黎明期から関与し、現在量産で用いられている MOCVD 法はソニーが選択した方式であり、白石蔵王 TEC から生まれた半導体デバイスが世界中のデータセンター、自動車、スマホで大量に使われていることを示されました。

休憩を挟んで、(3)「JSMC ホールディングスの紹介と事業概要」と題して、JSMC ホールディングス(株)代表取締役社長の呉元雄氏が、宮城県が大いに期待している大衡村への大

規模半導体製造工場進出計画を紹介してくださいました。しかし、資料の配布はなく、講演は一切撮影禁止という状況でした。講演内で土地利用等をあくまで予定であると強調していた理由が、9月末の大衡村進出計画白紙撤回で明らかになりました。(4)最後の講演は、NEDIA 理事・副会長、株式会社産業タイムズ社代表取締役会長の泉谷渉氏が「東北シリコンコリドーの時代がやってきた！～デバイス、装置など半導体関連企業の集積急ピッチ～」と題して、AI 活用のために膨大な半導体設備が必要となり、東北地区が我が国の中心の1つとして期待されているという内容の講演で纏められました。シリコンロードと言う演題だったのですが、より広い範囲を意味するシリコンコリドーへとタイトルを変更し、この種の講演としては珍しいスライドは1枚も使わない口頭だけの情報提供法でしたが、とても内容が充実した講演でした。配付資料には半導体産業規模が2025年には経産省予測より5年も前倒しで100兆円を突破する等の定量的な資料が沢山提示されています。NEDIA 代表理事・会長の齋藤昇三氏の閉会の挨拶で講演会は全て無事に終了しました。

その後、場所を近くの結婚式場インパルラ浦島に移し、川添良幸氏の司会で交流会が始まり、東北 NEDIA 副代表の相原正巳氏の挨拶があり、その後、講師陣との名刺交換や議論が盛大になされた内容の濃い交流時間を過ごすことが出来ました。



松岡隆志氏の基調講演



来賓ご挨拶をいただいた村井嘉浩知事がアルプアルパイン社の展示を視察。

文責 NEDIA 理事・東北 NEDIA 代表 川添良幸